

Safety Report セーフティレポート 子ども

市内すべての小学校で実施している 自転車安全運転免許試験

東京都八王子市は、小学生への自転車安全運転免許証発行事業を推進している。これは、小学3年生を対象に講習とテストを行い、児童に免許証を交付するというもの。警察と交通安全協会の協力のもと2004年度に2校でスタートし、市内の小学校70校すべてで実施するまでにいった。試験は各小学校で実施するケースと、同市の交通公園に児童を集めて実施するケースがある。

5月26日は、同市立元八王子小学校で3年生(77名)を対象に自転車安全運転免許試験が行われた。免許試験は学科テストと実技講習で構成されている。自転車は児童が普段乗っているものを使うが、教室実施前に近隣の自転車店に小学校まで来てもらい、点検を依頼している。自転車の整備不良による事故を防ぐためだ。試験では点検が済んだ自転車を使用しているという。

学科テストを受ける前には、自転車のルールをまとめたDVDを児童に視聴してもらい、同市の交通安全教育指導員が児童に講話を行う。その後、Hondaの「あやとりいひよこ※1」



高尾警察署の警察官がヘルメットの正しいかぶり方などを指導

のワークシートを使って、自転車は道路のどこを走るべきかを児童に問いかけ、答えてもらう。さらに、自転車で歩道や一時停止標識のある場所を通行する際に気をつけてほしいことなどを伝えた。最後に、児童は自転車のルールに関する10問のテストを受ける。

実技講習の前には、高尾警察署の警察官がヘルメットの正しいかぶり方、自転車の点検項目を説明。テストのコースは「スタート→歩行者のいる横断歩道を降車して押し歩きする→歩行者のいない横断歩道を自転車に乗って渡る→道路の障害物(工事中)を回避する→『止まれ』のある標識で一時停止した後、左右と後方を確認する→両手(左→右)ブレーキ→ゴール」となる。模範走行を示し、安全確認などどのように行動をすれば良いかを伝えた。児童は全員、学科テストと実技講習に合格し、自転車安全運転免許証が交付されることとなった。

元八王子小学校校長 長田猛さんは、座学と実技の両方を行うことが重要だという。「正しい情報を知り、それを実際の生活の中で実践で



座学で学んだことを実技講習で実践する児童



交通安全教育指導員 村山祐美さんが「あやとりいひよこ」のワークシートを使って、横断歩道に歩行者がいたら自転車を降車して押し歩きをするよう児童に伝えた

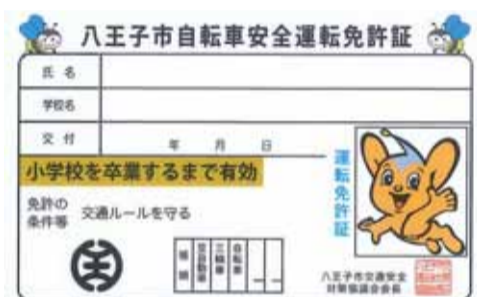
きるようにならないといけません。実技では警察官や指導員の方々が一人ひとりに確認すべきポイントなどを教えてくれました。普段の乗り方との違いに気づき、歩行者のことも考えて乗らなければいけないと理解できたと思います。こうした機会を通じて、自分の命はもちろん、まわりの安全も守れるようになってほしいと期待しています」。

同市交通安全教育指導員 村山祐美さんは「児童が体験しながら学べる機会をつくれるように、この試験を継続しています。コロナ禍では実施を見送る小学校もありましたが、今年度は再開する学校も増えてきました。それだけ、自転車教育のニーズは高まっているといえるでしょう。座学では、Hondaから提供された教材を活用しています。特に『あやとりいひよこ』のワークシートを使うことで、児童も

理解しやすくなると感じています」と話す。同市は希望する小学校に対して5年生への座学も実施している。自転車のルールの再確認と、車両の運転者としての自覚を促すことを目的とした内容となっている。村山さんは「豊富なイラストや図を使って、安全な乗り方や安全確認の重要性をわかりやすく伝えることができるという点で、Hondaの『小学生自転車交通安全※2』が役に立っています」という。

※1 4～5歳児を対象とした交通安全教育プログラム。歩くことに焦点を当て、「どこを歩くのか」「どのように歩くのか」を考えてもらいながら交通安全の基本を学ぶことができる。

※2 小学3～4年生を対象とした教材。自転車のルールや知識を学び、安全な乗り方を身につけるための座学を実施するための映像資料となっている。



児童に交付される自転車安全運転免許証。裏面には自転車に乗る時の約束が記載されている

地域の子どもたちが楽しみながら学べる 比島交通公園での交通安全教育

高知県高知市にある高知県立交通安全こどもセンターは1970年に開園し、「比島交通公園」の愛称で地域の人々に親しまれている。年間の来園者は13～14万人。7年ほど前から小学生向けの交通安全教室でHondaの交通安全教育プログラムを使用している。

同センターを運営する(一社)オフィスボラリス代表理事で園長を務める山崎勇人さんは「私たちの活動コンセプトは『楽しみながら交通ルールを学ぶ』こと。Hondaの教材は子どもたちの興味や関心を引きやすく、とても使いやすいです」と話す。

5月24日、南国市立日章小学校の1年生(25名)が来園し、交通安全教室を受講した。教室の前半はHondaの「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編※3」の映像(アニメーション)を活用。男の子2人組が小学校から下校している場面、2人はおしゃべりに夢中になって、見通しの悪い交差点で止まらずに飛び出してしまい、クルマとぶつかりそうになってしまう。山崎さんがここで映像

を止め、なぜぶつかりそうになったかを、児童に問いかけると「まわりを気にしないで歩いてきたから」「(交差点を横断する前に)止まらなかったから」という答えが返ってくる。その後、映像を進め「道路を渡る前は止まる。右をみて、左をみて、もう一度右をみて、クルマやバイクが来ていないことを確かめてから渡る」という安全な道路の渡り方を「できるニャン」が説明し、学んでもらう。さらに、Hondaの「あやとりいひよこ」のワークシートを見せ、歩行者が歩くべき場所を児童に答えてもらった。最後に山崎さんは「とまる・みる・まつ」と大きく書かれたパネルを見せながら、それらを実演した。

教室の後半は、学んだことを公園内の横断歩道で実践。4人1組になって横断歩道を渡る。その後、児童は先生方が運転するゴーカートに乗車した。

「交通安全は繰り返し学んで身につけることが大事です。ゴーカートに乗ることが楽しみで、ここを訪れてもらえれば、自ずと交通安全に



「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編」の映像を使って、見通しの悪い交差点などを渡る時の安全行動について児童に考えてもらう

触れる機会も増えます。ゴーカートに乗ることは、少し大人の目線を体験することにつながり、自分たちが歩行者として普段どうすべきか考えるきっかけになります」と山崎さんはいふ。

児童を引率した日章小学校教頭 細川晃さんも、交通安全を学ぶ場として、この交通公園が上手く機能していることを実感したと振り返る。「ここに来ること自体が楽しみで、子どもたちのモチベーションも高まっていました。印象的だったのはHondaの教材で学習している時、手を挙げて意欲的に発言していたことです。普段の生活と照らし合わせて、交通ルールや

安全行動を身につけられる良い機会だったと思います」。

同センターでは、このような小学生の団体向けの教室のほか、一般参加の交通安全イベントも積極的に開催している。「子どもだけでなく、親子で交通安全を学んでもらい、毎日の暮らしの中で自然と安全意識を高めることができるような状況を根づかせるのが、私たちの役割だと思っています」と山崎さんは力強く語った。

※3 Honda交通安全啓発キャラクター「できるニャン」が登場するアニメーションを活用した対話型のプログラム。



「あやとりいひよこ」のワークシートを使いながら児童に問いかける



園長の山崎勇人さんが「とまる・みる・まつ」の重要性を説明



教室の後半は「とまる・みる・まつ」の学んだことをセンター内の横断歩道で実践



先生方が運転するゴーカートへの同乗(小学3年生以上は自ら運転可能)